

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	2092
事業名	航空活動費					
評価担当課	所属名	消)警防部 消防救助課				
	課長名	高木 修	担当者名	村松 佑亮	電話番号	0133-62-4119
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input checked="" type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他
	目的	短期	消防ヘリコプターを維持管理し、消防航空体制を確保する。			
		長期	安全運航体制の維持及び消防航空体制の充実強化を図り、市民の安全・安心を確保する。			
取組内容	<p>【目的】消防ヘリコプターの特性を活かし、消火、救助、救急等の幅広い航空活動を行う。</p> <p>【内容】消防ヘリコプターの維持管理経費</p> <p>①需用費、備品購入費・・・航空機用部品、航空活動資機材等</p> <p>②役務費、委託料・・・航空機修繕検査等、気象情報等提供業務、航空身体検査、航空機保険料等</p> <p>③その他・・・旅費、負担金</p>					
実施結果	運航体制を維持するために必要な事業を計画的に行ったことにより、大きな機体不具合や長期の運航不能期間なく各種災害において消防防災ヘリコプターの特性を活かした災害対応が実施できた。					
事業実施における工夫点	消防航空体制を確保するため、日々の点検整備・過去の整備状況確認、及び資器材の更新を計画的に実施している。					
対象者	市民	開始	令和3年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	消防組織法、消防法、緊急消防援助隊に関する政令及び航空法					
他都市の状況	政令指定都市の中で仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市及び福岡市の全14都市が同様にヘリコプターを保有し活動している。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	287,241	230,463	192,779	219,144	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	12.0	12.0	12.0	12.0	
人件費	86,400	86,400	86,400	86,400	
計(事業費+人件費)	373,641	316,863	279,179	305,544	
事業費の内訳	令和3年度決算	回転翼航空機耐空検査等:88,362千円、消防ヘリコプター賃貸借:59,030千円、航空タービン燃料油:19,731千円、航空保険関係:1,728千円、その他:23,928千円			
	令和4年度予算	消防ヘリコプター賃貸借:79,478千円、回転翼航空機耐空検査等:69,630千円、航空タービン燃料油:19,074千円、航空保険関係:1,728千円、その他:49,234千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	各種災害出動件数				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定		
	182	374	281	300		
活動指標2	指標名					
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定		
成果指標1	指標名	救急搬送人員				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標		
	58	129	91	110		
成果指標2	指標名	救助人員				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標		
	10	39	13	35		
項目	判定	理由				
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	各種災害に消防ヘリコプターの特性を最大限に生かし対応するため、点検整備、資器材更新等を計画的に行い、運航体制を維持することで市民への安全・安心を提供することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発出されたため、外出者等が減り、救助人員は減少したと考えられる。				
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	運航体制を確立するため、レンタル機を活用して各種災害に対応している。さらに市内での災害対応を基本としながら、道や国からの要請により他市町村への応援出動にも対応しており事業規模は適切である。				
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	消防ヘリコプターの優れた機動力を生かし、情報収集活動や林野火災での消火活動、重傷者の救急搬送、山岳地・河川での人命救助及び捜索活動など幅広い災害活動に対応しており実施手法は適切である。				
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	重症患者に救命処置を実施しながら救急搬送を行い、搬送時間の短縮を図っている。地上部隊が進入不能な山岳地等での活動等の消防ヘリコプターの特性を生かし各種災害に対応し市民のニーズに応えている。				
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外    市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映					
今後の改善点	なし					
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし					
今年度取り組んだ見直し内容	なし			見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし					
評価の理由	消防ヘリコプターの特性を活かした航空活動を維持することで、市民への安全・安心を提供することができた。					
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善    ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 計画的な機体整備・資器材更新等を行い、消防ヘリコプターの運航を維持し、市民生活の安心・安全を確保する。				
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充    ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 計画的な機体整備・資器材更新等を行い、消防ヘリコプターの運航を維持し、市民生活の安心・安全を確保する。			見直し効果額	0